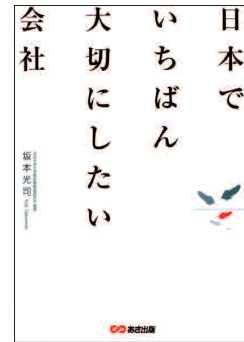


● 今月のコラム

『最近読んだ本』

株式会社 シモジマ 横山 庄蔵



題名 日本でいちばん大切にしたい会社(あさ出版)
 作者 坂本 光司 法政大学大学院政策創造研究科教授

私の恩師である坂本先生の本が18万部を超えるベストセラーになっています。今までにもここに登場する感動する話はいろいろな形で紹介されています。今回の坂本先生のこの本では、日本全国の6000社の企業のフィールドワークの中で見出した“日本一価値ある企業”として紹介されています。

心を打つ5つのストーリー

なぜこの会社は48年間も増収増益を続けられるのか。

なぜこの会社の話を聞いて涙を流すのか。

以上が本の見出しになっています。

実際に読み始めて、読んでいる最中から涙が溢れるのを抑えきれない内容でした。特にテレビドラマになった、日本理化学工業(株)の話は、今後の企業経営の在り方を大きく示唆する内容でした。障害者雇用率70%の会社。最近ではカンブリア宮殿・雑誌・その他の多くの媒体で多く紹介されていますので、ここで多くを語る必要はないかもしれませんが本当に素晴らしい会社です。

障害者雇用において、現実には経営者の方々は非常に悩むのではないのでしょうか。利益を出すために日夜コストダウンに奔走して、いかに効率よくやるか、いかにコストをかけないでやるかが今の経営の基本のような考えの中でこのような行動はなかなか実行できません。

私自身経営者のはしくれに連ねていますが、経営判断の中でいかに判断すればいいのいか悩んでしまいました。しかし先生の次の一言に救われた気がしました。「こういった会社に対して我々にできることは何ですか?」と先生に質問したことがあります。

坂本先生は、「その商品を実際使う・紹介するなど、自分ができる小さなことから手をつけることが一つの方法です。」と話をされ、納得したことを思い出しました。今後少しでも自分ができることを実現できるようにしていきたいと痛切に感じました。

私自身も先生とご一緒させていただき、この本の中に出ている2社に伺って実際にその会社の社長さんの話を直接聞かせていただくことができました。(北海道帯広の柳月さん・長野県の伊那食品工業さんの2社)

先生は本の中で「経営で大切なのは継続である。」「企業はゴーイング・コンサーンでなければならない。」「継続が、企業の社会的使命である。」「社員とその家族の幸福を追求し、実現すること。」など本に書いてある通りのことが現実に行われていました。

そのことにまず、驚き、感動しました。

この二つの会社で最初に伺ってまず驚いたのは、社長自ら対応していただいたことでした。企業が大きくなると社長自ら話をすることがなくなっていくのが現実のような気がします。自ら今までにやってきたこと・今後やりたいことを気さくに私たちに話をさせていただき、これは本物であると痛感しました。

さらにこの二社の共通点は地元に着した経営を行っている点でした。地元の皆さんの幸福を一番に考えて経営を行っています。

さらに社員の幸福、家族の幸福、これが経営の原点になっている事です。「企業は社員の幸せを通して社会に貢献する」「いい会社を作りましょう」「企業の目的は地域の人々を幸せにすること」などを明確に打ち出しています。打ち出すだけならどこの会社もやっていますが、実際に実行して会社も利益を出している企業です。

今回の先生の著書は心から感動できる会社を厳選して紹介されています。

企業経営とは・人間としての生き方を問いた、本当にいい本であると思います。



●NPO法人ガーデンを考える会総会記念セミナー 白砂 伸夫氏と五嶋 直美氏が講演

今回の通常総会記念セミナーは、これからのビジネスで欠かせない切り口で活躍されている、注目のお二人の講師をお迎えして行います。

また、セミナー後には懇親会の席を設けておりますので、名刺・情報交換の場としてご活用ください。会員の皆様、お誘い合わせのうえご参加をお待ちしております。

- ◇日時 2009年6月9日(火)14:10～17:00
- ◇場所 虎ノ門パストラル 新館5階 マグノリア(東京都港区)
- ◇会費 会員1社1名無料、2名以上および非会員1名につき5,000円(懇親会費含む)
- ◆問合せ NPOガーデンを考える会事務局(TEL052-571-7911)

「環境とガーデニング」

神戸国際大学教授
(株)アールフュージョン代表取締役 白砂 伸夫氏

【講演概要】

環境問題はいまや人類の存続をかけた問題である。その解決は単に科学技術によってのみ可能なものではなく、自然を深く理解し、いつくしむ心が大切である。ガーデンは自然と人間との融合した空間であり、我々はガーデンから自然の美しさや生命のすばらしさを体験として学ぶことができ、また自然から遠く離れてしまった我々現代人はガーデンづくりから自然を学ぶ第一歩をはじめることができる。ガーデンには自然の全ての要素が凝縮されており、多くの人々がガーデニングを楽しむことで豊かな精神性をとりもどすことができる。この自然を愛する精神なくしては環境問題を解決することはできない。

<http://www.artfusion.jp/>



～ポタジェガーデンのある暮らし～

「トカイナカに暮らす」 イラストレーター、ガーデンデザイナー
五嶋 直美氏

【講演概要】

庭は景色としての要素はもちろん、日々の暮らしや行動の一部として存在する空間です。

昨今ポタジェライフが注目され、テラスや庭の一部で野菜を育てる人が増えているのも、庭＝木や花といった景色としてのみの空間から、育てる、収穫といった行動の空間としても活用、求められるようになった現れでもあります。穫れたての野菜や、それらを育てる経過を楽しむ事ができるのはもちろんですが、野菜そのものの形や色の面白さが庭の要素として十分楽しめる事も、今まさにポタジェガーデンが注目されている大きな理由の一つだと思います。

庭の中で野菜やハーブを育てる事は、庭の3大要素、「見る」「育てる」「参加する(遊ぶ)」すべての要素を実現出来るといった点からも、これからの新しいライフスタイルとして、より多くの人たちに求められていく庭の形かと思われま。私の庭を一例に、どのような計画や意図の元、作られたかを解説しつつ、まわりの景色や環境も取り込んだアイデア庭づくりの事例、メンテナンスや庭での行動も考慮した配置やデザインなど、今後のポタジェガーデンの可能性も含めて、トカイナカでのポタジェライフを紹介していきたいと思ひます。



<http://naomi-garden.jp>

カエデ
kaede

● 浜名湖フラワー&ガーデンフェア2009

5月1日～10日まで

2004年に開催された「浜名湖花博」。延べ554万人もの来場者を集め、大成功を納めたこの一大イベントの開催から、今年2009年はちょうど5周年にあたる。これを記念し、5月1日(金)から5月10日(日)までの10日間にわたって、花博の跡地である浜名湖ガーデンパークにて「浜名湖フラワー&ガーデンフェア2009」が開催される。

今回注目の「ワールドガーデンコンペティション」は、日本におけるガーデンコンテストとしては最大の規模を誇るもので、海外からもデザイナー男女二人ずつ4名が来日する。また、ネオ・ジャパネスクの庭や、さまざまなイベントいっぱいのフラワーフェスタとなる。入場無料。

<http://www.hfg2009.com/>



● ニュース

40万人の来場者
世界らん展日本大賞2009

洋蘭、東洋蘭、日本の蘭など世界各地のさまざまなジャンルの蘭を一堂に集めた、「世界の蘭の祭典」[世界らん展日本大賞2009]が2月14日～22日、東京ドームで開かれ、日本国内外20を超える国・地域から総数約3000種・10万本を超える作品が展示された。

毎年40万人を超える来場者があり、展示、出展規模、来場者ともに比類のない祭典となっている。



日本大賞の斉藤正博さんのリカステ属
ショールヘブン'ヨウゴス デライト



庭にも合う和らん。これが本来の姿!?

● 会員紹介

有限会社 岡野秀花園

「美しい地球は一本の苗木から」という理念に沿い、シュラブ(低灌木)とコンフィアをポット生産しています。庭づくりに欠かせない樹木をより手軽に扱っていただくために創意工夫を重ねています。

お問い合わせ

〒301-0041 茨城県龍ヶ崎市若柴町2240-498
TEL 0297-66-2356 FAX 0297-66-3199
URL <http://www.okano-syukaen.com/>





会員コラム

中国の環境政策と問題点

株式会社 グリーンポット
古川 普紹

「日本から植木が無くなる?」

私が住んでいる福岡県久留米市(旧田主丸町を含む)はかつて日本3大植木産地として有名ですが、近年の住宅の洋風化に伴い和風庭園用の樹木の需要が減り、長い構造不況が続いていました。

ところが最近、その様相に異変が起きています。仲買人が中国人を伴い、大木を中心に高値で買い漁って行くのです。知り合いの造園業者さんに聞いても、もう久留米地区には販売できる大きな樹木はほとんど無くなったと言います。理由は中国の急激な都市開発にあります。2006年中国国務院は2010年までに都市緑化被覆率を40%にする目標を掲げ、各都市の園林局に特定規模以上の建築設計に対し建築確認申請の前に緑地率の審査をすることを通達しました。しかし近年やっと樹木の生産が始まったばかりで、急激な都市開発物件の需要量に国内供給が追いつかない状況です。そこであたりかまわず、高値で海外から調達している状況が我が地元の植木産地にも波及しているのです。グローバルな見地から言ってこれは環境保護と言えるでしょうか?

「膨大な環境投資と長期展望に立てない行政府」

昨年12月に中国政府は総額4兆元(約55兆円)の景気刺激策を発表しましたが、その中で環境・省エネインフラ事業、四川省復興事業を最重要分野に据え、各省政府へその具体的な案件を提出するように指示しました。これだけを見れば、この施策の中に大きな環境ビジネスが生まれるように思いますが、中国で水質浄化ブロックを販売している私はこれらの投資が本当に長期的な展望で実施されるかどうか疑問に感じます。

と言うのも、一旦破壊・汚染された環境を元に戻すには最新の環境技術だけでなく自然の自浄作用を利用しながら時間をかけて直して行くことが、人にも地球にも安心・安全であると考えからです。ところが、我々が改善の提案書を提出すると決まって、3か月以内で効果を出して欲しいと言われる。なぜだか判りますか? つまり人事異動の激しい管轄部署のトップの実績にしなければ意味がないと言う事です。中国では万事が万事、膨大なインフラ投資も行政トップが変われば途端に中断してしまいます。地方で4車線の道路が途中で1車線になっている例をよく見かけませんか? オリンピック開催中の北京市内の公園の池や河川が凝集剤の投入により一時的にきれいに成っても解決には程遠い状況です。

でも中国は今や世界一の金持ちですから、そのお金を消費すること自体が更なるビジネスを増幅させ、結果的には景気刺激効果はあると思われませんが、環境投資の名の下で一部の人の利権と地域格差がますます広がる現状はなかなか解決できそうにもありません。

事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL 052-571-7911
FAX 052-571-2208

フラワー&ガーデンショーに行ってきました。出展各社が、それぞれの小間でセミナーを行っていましたが、来場者の皆さん、ほんとに熱心に話を聞いていて、情報を伝える重要性を強く感じました。